



KPU NEWS

新型インフルエンザ感染防止に努めましょう

本学でも課外活動のため対外試合に参加していた学生4名が、8月16日にA型インフルエンザに感染したことが確認されました。それ以降も数件のA型インフルエンザ感染報告が寄せられています。

10月以降は新型インフルエンザの大規模な流行も予想されておりますので、学生・職員においては、引き続き感染防止に努めていただくとともに、体調不良時やインフルエンザ感染が判明した場合には次のとおりご対応いただくようお願いいたします。

1. 感染の予防

手洗いとうがいを励行し、感染予防に努めてください。

◎大学構内には手指消毒用エタノールを設置していますので活用してください。

◎大学にコップを持参し、うがいを行いましょう。

2. インフルエンザ感染の疑いがある場合

インフルエンザ様症状（38度以上の発熱かつ鼻汁もしくは鼻閉、咽頭痛、咳などの急性呼吸器症状）

が見られる場合は次のとおり、対処してください。

- (1) 大学への登校、クラブ活動、サークル活動、合宿および旅行は自粛してください。
- (2) かかりつけ医師や一般の医療機関などに、まず電話で相談してください。
- (3) 医療機関を受診する際はマスクを着用し、他の人にうつさないように注意してください。
- (4) インフルエンザ感染と診断された場合は、登校せずに直ちに大学まで連絡してください。
- (5) 外出を避け、主治医の指示に従い自宅で療養してください。
- (6) 大学への登校の可否については主治医の指示に従ってください。

<大学連絡先>

(学生の場合)

京都薬科大学 学生課

電話番号：075-595-4614（平日8:45～17:15）

075-595-4611（上記以外の時間）

メール：gakusei@mb.kyoto-phu.ac.jp

CONTENTS

新型インフルエンザ感染防止に努めましょう……………1	The 4th Collaboration Meeting on GI Pharmacology, Phytochemicals and Phytonutrients Co-sponsored by Kyoto pharmaceutical University and Yonsei Universityに参加して……………15～16
昇任のご挨拶……………2～4	Library News……………16
特集 第1回学生満足度調査……………5～7	お知らせ……………17
CBT体験受験について……………8	京薬会だより……………18
2009年度6月、8月のオープンキャンパス開催……………9～10	京都薬科大学奨学金制度充実のための寄附のお願い……………18
2010年度大学院博士後期課程(夏季募集)及び……………	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録……………19～20
2009年度大学院博士後期課程(秋季入学)入学選考結果……………11	
卒業生からのメッセージ……………11	
受賞・掲載……………12～14	

昇任のご挨拶



基礎科学系
一般教育分野
教授 秋澤 雅男

本年7月1日付けで教授に昇任させていただきました。想えば、非常勤で大学教員を初めて33年、本学で非常勤講師になって25年、そして助教授(現准教授)を拝命して18年が経過しました。私は、修士課程ではハイデガールの哲学を、特に『存在と時間』を中心として研究しておりました。しかし、修士論文を書いた後、ハイデガールの独創的で深淵ではあるが偏狭で独断的な存在論に嫌気がさし、もっと広い知の領域を考究する哲学はないものかと模索しておりましたところ、学部学生時にその講義を受けたことのある故中塾肇教授の知遇を得て、博士課程より関西大学大学院にてただ一人の院生としてこの先生の下で教えることになりました。この先生は、本来ヘーゲル研究者として良く知られた方でしたが、ドイツではゲーレンに教えを受け哲学的人類学を学び、この分野の日本では数少ない研究者の一人でもありました。もともと比較行動学、自然人類学、文化人類学等々の学に関心があり、いわば哲学的雑学趣味のあった私は、中塾先生の傍流の研究に惹かれ、それが自分の人生を賭ける研究分野となりました。博士論文を書けないまま博士課程哲学専攻を全単位取得満期退学することになり、その年4月より上記のようにドイツ語の非常勤講師として二つの大学で教員の道を歩み始め、やがて本学の常勤教員となったわけです。

本学で私がドイツ語を教え始めた頃、ドイツ語は通年で週に1年次2コマ、2年次1コマそして3年次にも1コマが必修で、真にドイツ語学校より創立した本学の伝統を体現しておりました。現在の6年制になってコマ数は激減しましたが、学生諸君のドイツ語学習への意欲は、桑形先生が担当されている「フライブルク夏期ドイツ語講座」に参加する学生が多いことから、まだ保たれていると言えるでしょう。また、私は一般教育分野の教員として、哲学的人類学、生命の倫理、基礎演習という教養教育を担当しておりますので、この挨拶の最後に学生諸君に切にお願いしたいことは、様々な年齢の人々と適切な間合いを取って共感関係を築く必要のある医療人に成る諸君は、常に広範な知の領域に興味を抱き自らの教養を高める努力をして頂きたいということです。その手助けのためなら、私は教員として全力を尽くす覚悟をしております。



基礎科学系
一般教育分野
教授 抱 喜久雄

本年7月1日付けで一般教育分野の教授に昇任させていただきました。私は、関西学院大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程で単位を取得、その後、聖徳学園短期大学の助教授を経て、平成4年4月に本学に着任いたしました。以来、今日までさまざまな事がありましたが、とりわけ薬学教育の4年制から6年制への移行は大きな変化であり、それに伴って本学でもハードとソフトの両面で大改革が推し進められてきました。

ところで、本学の教育目的のなかに、「医療に関する幅広い専門知識、豊かな教養と人間性、高い倫理観」を兼備した人材の育成が謳われています。これは、たとえ教育制度がどのように変えられようとも薬学教育にとって普遍的な目的の一つであると思われれます。私は本学着任以来、主として、法学、日本国憲法、現代社会と人権など一般教育科目の講義を担当して参りましたが、「豊かな教養と人間性、高い倫理観」を有する人材を育むことはまさに一般教育の目的とするところであり、私自身も常に心してきたところです。人間は決してひとりでは生きていけないのであって、常に他者(家族、友人、自己を取り巻く人々、社会など)との種々の重層的な関係性のなかで生きていくのであり、その関係性を正しく認識し、より良い関係性を構築していくためには、一般教育を通じての「豊かな教養と人間性、高い倫理観」の涵養が不可欠であることはいまでもありません。もとより微力ではありますが、本学が掲げる教育目的の遂行に全力を尽くしたいと思っております。

研究の分野に関していえば、大学院入学以来、一貫して「憲法」とりわけ「人権の保障に関わる諸問題」を研究の対象としてきました。日本国憲法上、広汎な人権保障規定が置かれており、実効的な人権保障が実現されていると思われ勝ちですが、基礎理論(たとえば、人権の根拠など)を始め取り組まなければならない問題は山積しています。かつて、恩師から「学ハ人也」(ガクハヒトナリ)という言葉頂きましたが、これを肝に銘じてこれからも研究に打ち込んでいく所存です。

定年まで残された時間はそれほど長くはありませんが、教育・研究に全力投球をして参りたいと思っております。今後とも、今まで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



**基礎科学系
一般教育分野
教授 鈴木 栄樹**

本年7月1日付で教授に昇任させていただきましたので、貴重な誌面をお借りしてご挨拶を申し上げさせていただきます。

私は、1973年に京都大学文学部に入学、その後、史学科国史学専攻へ進み、さらに大学院修士課程から博士課程へ進学しました。日本史のなかでも、幕末・明治以降の近代史を専攻しております。1984年に大学院を学修退学したあとは、同大学文学部に研修員として在籍し、1991年度に本学の非常勤講師を1年間つとめたのち、翌1992年4月1日付で助教授に採用していただきました。

私の研究課題の一つは、幕末以降の日本の近代化過程に関するものです。日本は、この1世紀半ほどの歩みのなかで劇的な変貌を遂げてきました。幕末には西洋列強の植民地や従属国になりうる可能性もあったなかで、急速な近代化を迫られ、いくつかの悲惨な戦争と内外の多くの人たちの犠牲を経つつ今日の豊かさや平和とを築きあげてきました。私は、何よりもこの事実を若い人たちに知ってほしいと思っています。また、この過程で、私たち日本人は、多くの外国の人たちの恩恵に預かり、そして、そうした外国人の恩恵を真摯に受けとめ、孜々としてそれぞれの分野で励んできた人たちがいたということも。そのことは、たとえば、本学の起原に目を向ければ明らかです。来日ドイツ人のルドルフ・レーマンとその薫陶を受けた人びとの努力がなかったならば、私たちは今のように存在していません。今、私は、医療や薬学という面を通して日本の近代化を考え、また教えていきたいと考えています。

もう一つの研究課題は、前記の近代化という点をとくに京都という地域に即して考えてみることで。このばあい、幕末以来の京都という都市の社会構造の変遷過程を、都市の開発事業、コレラやチフスなどの感染症（明治時代には、これらの感染症で数十万人が亡くなっています）対策や衛生行政との関係で明らかにしてみたいと考えています。今、地域社会の存亡と関わって公共事業の要否が問題となっています。あるいはインフルエンザの脅威が地域社会に様々な影響を与えています。歴史はけっしてたんなる過去の物語ではなく、若い人たちがこれから生きていくうえで、何らかの指針を与えてくれるものです。そんなことを授業のなかで伝えられたらと考えています。

6年制も4年目にはいり、本学は内外ともにさらに

多事多難な時期を迎えようとしています。私も一般教育分野からではありますが、様々な専門・職域の方々とともに微力を尽くし、教育・研究の本務に邁進していく所存です。どうぞよろしくご指導とご鞭撻とをお願いいたします。



**生命薬科学系
衛生化学分野
教授 長澤 一樹**

本年7月1日付で教授に昇任させていただきました。私は、学部時代を薬理学教室（現薬理学分野）、そして大学院を病院薬学教室（現臨床薬学分野）にて終えた後、直ちに助手として採用され、2000年4月に衛生化学教室（現衛生化学分野）に移り、現在に至っております。その間、大学、研究室をはじめとする多くの関係者のご理解とご協力のもと、国内外の研究施設、臨床現場において貴重な経験をさせていただきました。これらを通じて、“医療現場のみならずさまざまな分野に進出する薬剤師たるものは、臨床力のみならず研究力も兼ね備えてこそ、医療人として生き残ることができる”と私は考えるようになりました。ここでいう“研究力”とは、実験が出来ることだけを意味しているのではなく、日常の中で疑問を感じ、それに対する方略を論理立てて立案し、解決に導く力のことです。私は、学生時代そして社会人となった後も多くの方々から温かいご指導を受けることにより、この“研究力”が少なからず養われ、それにより様々な場面において、単に経験だけでなく多くのことを吸収し、自身の力にすることができたと思っております。これに“人力”が加われば、研究力はさらに大きくなることは言うまでもありません。

学生時代は、試験のために勉強するといった意識が強いかもしれません。しかし、その中で「何故？」と思う探究心をもって少しずつでも取り組めるようになることが、研究力を身に付けるための第一歩であると考えております。そして多くの人との出会いの中で、その「何故？」をぶつけ合うことで人力も備わってくると思います。学生時代、私は感じた疑問について仲間と呑みながら議論することに時間を費やしたため、基礎知識の修得のための時間が不十分となってしまう、卒業してからそれをリカバーするのに大変苦労しました。しかし、その中で人力の重要性には早い時期から気づいていたように思います。このような経験に基づき、学生諸君には少しでも早く、基礎知識の修得のみならず、研究力と人力の大切さを認識してもらえよう、微力ながら貢献できるように努力していく所存です。

学生諸君が大きな夢と希望を持って、多種多様な経験できる教育環境創りを目指すとともに、今後より一層“京都薬科大学の卒業生”であることに誇りが持てるような教育・研究の展開をはかっていきたいと思っております。今後、益々のご指導・ご鞭撻を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。



生命薬科学系
公衆衛生学分野
教授 渡辺 徹志

本年7月1日付けで教授に昇任させていただきました。私は、1982年に本学生物薬学科を卒業後、静岡薬科大学大学院薬学研究科（現静岡県立大学大学院薬学研究科）に進学し、修士課程修了後、静岡県島田保健所（現静岡県中部健康福祉センター・衛生薬務課）技師を経て、1985年4月に本学衛生化学教室（現公衆衛生学分野）に助手として着任いたしました。

学部生・大学院生の頃は、郷里で公務員として衛生試験所あるいは衛生行政機関に勤務することを進路として考え、大学院修士課程修了後もその通り歩んでおりました。そのため、卒論研究をご指導下さった本学衛生化学教室 福井教授（現本学名誉教授）より母校へ教育・研究職として戻るお誘いを受けた際には、大変驚くとともに自分にそのような職が務まるか非常に不安を感じました。転職する大きな決断の後押しとなったのは、大学院時代よりの恩師富田教授（現静岡県立大学名誉教授）と木苗助教授（現静岡県立大学学長）より「母校のために全力を尽くしなさい」とのご助言でした。そして福井教授、平山教授（現本学名誉教授）をはじめ諸先生方からご指導ご鞭撻を賜り、また同僚並びに後輩の方々からご厚情を受け、今日まで教育・研究に携わらせていただきました。この間に、本学より薬学博士学位を受け、ノースカロライナ大学並びに米国環境庁（US EPA）健康環境影響研究所へ留学させていただき、教育・研究の基礎を創ることができました。また、一貫して環境中の発がん関連物質の解明をテーマに研究してまいりました。

この約24年間に何度も教育・研究の難しさを感じることがありました。そのような困難さや苦しい気持ち乗り越える原動力となったのは、転職を決断した時の教育・研究をやり遂げるという覚悟・決意であったように思います。新しい薬学教育制度が進められている現在、これまで以上に優れた薬剤師が社会に出てくるのが期待されています。本学学部

生・大学院生の皆さんには、将来に向け、できるだけ多くの専門知識や技能を自ら進んで身につける覚悟と決意を持って日々を過ごしていただきたいと思っております。大学は教育・研究を通して社会で生きていくのに何が必要か学生諸君に伝え、優れた人材を育てる場であると考えています。微力ではございますが、そのために鋭意努めていく所存です。今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

京都薬科大学「京薬論集刊行会」主催
第7回文化講演会のお知らせ

日時：2009年11月3日（火・祝日）午後2時～4時
場所：京都薬科大学 愛学館 A41講義室

講演者：濱崎博氏（京都薬科大学 健康科学分野教授）
演題：「スポーツと禅」

講演者：杉本節子氏
（財団法人奈良屋杉本家保存会事務局長・料理研究家）

演題：「京商家の食のならわし」

京薬祭で楽しむと共に、是非とも御来聴にお出下さい。祭りの中で知的にも刺激を受けましょう!!

クラブだより

ESS部

ESS部は、毎週火・木曜日の昼休みに活動しています。

ディスカッションや英語を使ったゲーム、リスニングなどを通して、楽しく英語を学んでいます。

また、ESS部はWJEMA（西日本医科歯科薬科学学生ESS連盟）に加盟しており、近畿圏のほか、九州・中国・四国地方の大学と大会やイベントなどで交流しています。

英語力を磨きつつ、他大学に多くの友達ができることがESS部の自慢です。

特集

第1回学生満足度調査

初めての学生満足度調査である。総合評価の平均点は、10点満点で6.4となった。大学の成績で言うところには職員が一丸となって学生を巻き込み努力する以外に方法はないことを、各自が肝に銘ずるべきであろう。

大学の中核を成す「教育・研究」について見ると、以前から問題になっていたことだが、「教養科目」の選択肢が少なすぎるのが、まず第一に指摘されている。また、英語教育については、1年次は少人数でしかも半期はネイティブの授業があることがある意味うたい文句であるはずなのだが、惨憺たる評価に終わっている。担当教員は、非常勤の先生方との意思疎通を図り、改革に努める必要がある。3、4年次生に関しては、「総合薬学研究・演習」について、配属方法や定員についての不満が高いことが問題点である。

その他、「学生サポート」や「施設・設備」の不備・不足についての率直な批判的評価についても納得させられるものが多い。

この学生から提示された調査結果の実態を真摯に分析、理解し、学生諸君の本学への満足度を高めるために、大学は各項目の責任者を決め、改善・改革に取り組む予定である。

本学では2009年4月に2年次生から4年次生までを対象とした「学生満足度調査」を実施し、その集計結果を2009年9月の教授会で報告いたしました。学生の皆さんにつきましては、お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

学生の皆さんからの声を本学の全職員で共有し、今後の教育・研究の改善に役立てていただきたいと考えています。今後も京都薬科大学の教育・研究の更なる改善のため、学生の皆さんの声をお寄せ下さい。

なお、全学的な取り組みとして改善が必要な項目につきましては、責任者を決めて改善を行います。改善結果については追って報告いたします。

1. 学生満足度調査の実施概要について

(1) 実施対象について

薬学部2年次生～4年次生が対象

(2) 記名・無記名について

無記名方式

(3) アンケート用紙配付について

2009年4月13日（月）～17日（金）

(4) アンケート回収期間について

2009年4月24日（金）まで

(5) 回収数

653部（回収率は55.7%）

2. 学生満足度調査結果

(1) はじめに

① 性別

No	回答	回答数	構成比
(1)	男性	181	27.7%
(2)	女性	471	72.1%
	無回答	1	0.2%
	計	653	100.0%

② 学年

No	回答	回答数	構成比
(1)	2年次	247	37.8%
(2)	3年次	218	33.4%
(3)	4年次	187	28.6%
	無回答	1	0.2%
	計	653	100.0%

③ 通学形態

No	回答	回答数	構成比
(1)	自宅通学	367	56.2%
(2)	自宅外通学（下宿）	284	43.5%
	無回答	2	0.3%
	計	653	100.0%

④ 通学手段

No	回答	回答数	構成比
(1)	電車通学	372	57.0%
(2)	自転車通学	178	27.3%
(3)	バイク通学	2	0.3%
(4)	徒歩	98	15.0%
(5)	その他	0	0.0%
	無回答	3	0.5%
	計	653	100.0%

(2) 京都薬科大学の魅力について

No	回答	回答数	構成比
(1)	伝統があり、多くの卒業生を輩出している	371	23.1%
(2)	学力水準が高く、知名度が高い	321	20.0%
(3)	高い研究力	154	9.6%
(4)	最先端の薬学教育を受けることができる	77	4.8%
(5)	施設や設備が充実している	110	6.9%
(6)	高い就職率	119	7.4%
(7)	立地条件が良い	186	11.6%
(8)	京都の街	228	14.2%
(9)	その他（下記自由記述欄に記入して下さい）	16	1.0%
	無回答	21	1.3%
	計	1603	100.0%

(3) 京都薬科大学の教育・研究について

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	平均点
Q7-1	シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	111	481	38	17	6	653	3.1
Q7-2	1コマ90分の授業は長すぎる	55	254	252	86	6	653	2.4
Q7-3	教養科目(人と文化)は充実している	39	361	180	65	8	653	2.6
Q7-4	基礎演習では、少人数制の良さが感じられた	192	371	59	27	4	653	3.1
Q7-5	早期体験学習のプログラムは充実している	90	420	103	36	4	653	2.9
Q7-6	1年次の補講(物理学、生物学、数学)は充実している	93	389	114	47	10	653	2.8
Q7-7	外国語教育は充実している	32	325	206	86	4	653	2.5
Q7-8	進級条件は理解できている	164	386	74	24	5	653	3.1
Q7-9	授業に関すること、呼び出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	113	409	93	31	7	653	2.9
Q7-10	専門科目には満足している	14	130	29	9	5	187	2.8
Q7-11	専門科目実習には満足している	15	126	31	11	4	187	2.8
Q7-12	総合薬学研究・演習の分野配属の方法は適当である	18	104	28	33	4	187	2.6
Q7-13	総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる	51	100	19	12	5	187	3.0
Q7-14	総合薬学研究・演習の定員は適切である	21	95	36	32	3	187	2.6
Q7-15	研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	43	105	19	16	4	187	3.0

<講義>

講義関連では、特に基礎演習で実施している少人数制教育の良さが評価されている。一方、教養科目(人と文化)および外国語教育に対する満足度が低いため、原因を究明し対策を講じる必要がある。

<総合薬学研究・演習>

総合薬学研究・演習は、専門性を深められる点や研究室の安全管理などが非常に高く評価されている。しかし、分野配属の方法や定員に対する不満が見受けられるため、ここを改善することで更なる満足度向上が図れるものと思われる。

(4) 京都薬科大学の学生サポートについて

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	平均点
Q9-1	学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	207	406	27	8	5	653	3.3
Q9-2	クラブ活動に対して十分な資金援助が行われている	49	400	97	51	56	653	2.7
Q9-3	クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	36	358	144	68	47	653	2.6
Q9-4	奨学金制度は充実している	67	448	58	31	49	653	2.9
Q9-5	困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	51	304	181	109	8	653	2.5
Q9-6	困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	27	285	208	119	14	653	2.3
Q9-7	各種証明書の発行日数には満足している	66	425	95	39	28	653	2.8
Q9-8	下宿先の紹介制度が充実している	22	349	137	66	79	653	2.6

<窓口対応>

窓口対応は親切・丁寧であるとの良い評価が目立つ。引き続き現在の対応を継続する。

<クラブ活動>

クラブ活動の支援については、資金面よりも設備面で更なる充実を図って欲しいという意見が目立つ。

<メンタルヘルスのサポート>

困ったときや悩んだときに学生相談員や精神科医等に相談したいという学生は全体の5割程度であった。学生相談員については「相談しにくい」「遠い存在に感じる」などの意見が寄せられているため、学生が困ったときや悩んだ時に相談しやすい環境を作ることが必要である。

<下宿先の紹介制度>

下宿先の紹介制度が充実していないとの意見が目立つ。

(5) 京都薬科大学の施設・設備について

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	平均点
Q11-1-A	施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	135	409	91	9	9	653	3.0
Q11-1-B	施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	157	433	40	6	17	653	3.2
Q11-1-C	施設・設備が充実している 自習室	84	346	164	51	8	653	2.7
Q11-1-D	施設・設備が充実している 駐輪場	69	450	66	28	40	653	2.9
Q11-1-E	施設・設備が充実している ロッカー室	63	346	170	62	12	653	2.6
Q11-1-F	施設・設備が充実している 掲示板	78	452	90	25	8	653	2.9
Q11-1-G	施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	188	403	42	10	10	653	3.2
Q11-2	食堂施設が充実している(メニュー、値段、自動販売機含む)	42	205	235	163	8	653	2.2
Q11-3	図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービスも含む)	58	387	136	54	18	653	2.7
Q11-4	文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	66	418	122	38	9	653	2.8
Q11-5	憩いのスペースが充実している	43	305	205	87	13	653	2.5
Q11-6-A	安全・衛生管理が行き届いている セキュリティー	91	468	63	17	14	653	3.0
Q11-6-B	安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	99	479	50	12	13	653	3.0
Q11-6-C	安全・衛生管理が行き届いている 清掃	206	413	17	5	12	653	3.3

<設備（講義室・実習室・情報設備）>

講義室、実習室および情報関連の設備については学生から非常に高い評価を得ている。躬行館完成後は講義室・実習室はさらに充実することから、本学は学生に十分満足してもらえる講義室・実習室を提供できていると考えられる。

<食堂>

食堂については特にメニューと席数に関する不満が多い。躬行館の食堂が完成すれば席数についてはある程度解消できると思われるが、メニューに対する不満については対策を講じる必要がある。

<憩いのスペース>

空き時間を過ごす憩いのスペースが無いという意見が多い。将来の建築計画に憩いの場を組み込む必要がある。

<衛生管理（清掃）>

学内の衛生管理（清掃）については学生から非常に高い評価を得ている。

(6) 京都薬科大学の進路支援体制について

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	平均点
Q13-1	進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	11	99	142	389	12	653	1.6
Q13-2	進路支援課隣接の資料室を利用したことがある	3	105	141	392	12	653	1.6
Q13-3	「早期体験学習」・「薬学への招待」は、進路を考えるうえで参考になった	56	344	149	94	10	653	2.6
Q13-4	進路ガイダンスの内容はわかりやすい	28	264	78	24	11	405	2.8
Q13-5	進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	27	259	80	28	11	405	2.7
Q13-6	2年次のガイダンス「職種説明」は、進路を考えるうえで参考になった	36	238	88	28	15	405	2.7
Q13-7	3年次のガイダンスは、進路を考えるうえで参考になった	25	109	36	10	7	187	2.8
Q13-1-1	相談後に問題は解決した。参考になった	9	69	5	1	26	110	3.0
Q13-1-2	回答内容はわかりやすかった	8	68	3	1	30	110	3.0

<進路に対する意識>

今回の調査対象者の大半が6年制学部2年次生～4年次生ということもあり、自らの進路に対してまだあまり関心を持っていないことが窺える調査結果となった。早期に進路に対する意識を高め、進路支援課を有効活用できるような方策を考える必要がある。

(7) 総合評価（10点満点）

No	回答	回答数	構成比
(1)	1. まったく満足していない	6	0.9%
(2)	2	18	2.8%
(3)	3	31	4.7%
(4)	4	40	6.1%
(5)	5. どちらとも言えない	86	13.2%
(6)	6	125	19.1%
(7)	7	159	24.3%
(8)	8	133	20.4%
(9)	9	28	4.3%
(10)	10. 非常に満足している	10	1.5%
	無回答	17	2.6%
	計	653	100.0%

平均点：6.4点

<総合評価>

今回の総合評価の平均点は6.4点であった。来年度以降も継続して学生満足度調査を実施し、実施した施策の有効性を検証する指標として総合評価の平均点を活用したい。

「CBT体験受験について」

薬学共用試験CBT対策・実施委員長 山本 昌

さる7月30日、31日の両日に本学4年次生を対象にCBT体験受験が実施された。本体験受験は、薬学共用試験センターが全国から集めた問題を用いて全国の薬系大学で実施したものであり、今年の冬に実施される第1回目のCBT本試験とほぼ同様のスケジュールで行われた。すなわち、午前中のゾーン1では物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学の問題、午後からのゾーン2では薬と疾病（薬理系、薬剤系、情報系）の問題、さらにゾーン3ではヒューマニズムとイントロダクション、健康と環境、薬学と社会、実務実習事前学習の問題が合計310題出題され、各学生はパソコンを用いてこれら問題に対する解答を行った。本試験の目的は、(1) 本番のCBT試験の前に受験生である4年次生の学生にパソコンをはじめとする試験の実施方法を体験してもらい、その操作などを習熟しても

らうこと、(2) 出題された310題のうち、93題の問題については難易度を把握するために学生に解答させて今後の精選作業の参考にするということである。当日、各学生は既にCBTの模擬試験などを体験していることもあり、パソコン操作に戸惑う学生も少なく、試験は全般にスムーズに実施された。また昨年までと異なり、各学生は自分達が本番でもCBT試験を受験しなければならないので、出席率も高くかなり真剣に試験に臨んでいたのが印象的であった。なお試験の個人成績については、本学CBT対策室から各学生に配布され、成績不良者については個別に指導を行う予定である。最後に本体験受験では多くの職員の方々に監督業務などをお願いし、御協力を頂きましたことについて改めて御礼を申し上げます。



2009年度 6月、8月のオープンキャンパス開催

入試課

1. 6月のオープンキャンパス

6月14日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

参加者数は、受験生等118名、付添者72名でした。

愛学館講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、4年次生四方基嗣さんに大学生活全般の話をしていただきました。「卒業生の話」では、淀川キリスト教病院に勤務されている寺沢匡史先生をお招きして、「必要とされる薬剤師を目指して～京都薬科大学で私が得たものは・・・～」というテーマでお話いただきました。「在学生の話」、「卒業生の話」ともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、臨床薬学教育研究センターと代謝分析学分野、衛生化学分野、微生物・感染制御学分野、病態生理学分野、薬物治療学分野、臨床薬学分野の見学を行いました。愛学館自習室で実施した「相談会」には、91名の参加者があり、入学試験や学生生活、就職などの相談がありました。

2. 8月のオープンキャンパス

8月1日（土）・2日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

初日は開催途中での雷雨、二日目は夜半から早朝にかけて雨に見舞われる、あいにくの天候となりましたが、前年に引き続き1,000名を超える参加者がありました。本年度も、愛学館講義室での「学長挨拶」、「大学紹介」、「ミニ講義」の後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を実施しました。昨年まで体験実習参加者は、施設見学に参加できませんでした。今回から参加できるように改善を行いました。

参加者からは、大学紹介について「わかりやすかった」、「知りたいことがわかった」、ミニ講義については、「身近な内容で面白かった」、「興味深かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、「きれいだった」、「設備が充実していた」、体験実習については、「楽しかった」、「面白かった」などの声が多く聞かれました。

相談会では、両日合計259名の参加があり、教育職員、事務職員、在学生在が相談に応じました。参加者からは、「丁寧な説明でよくわかった」、「親切に対応してもらえた」などの感想をいただきました。

ミニ講義

8月1日（土）午前・午後 小原幸 准教授（病態薬科学系臨床薬理学分野）

「さかなを食べると○×△がよくなる?!」

8月2日（日）午前・午後 西口工司 教授（医療薬科学系臨床薬理学分野）

「薬の上手な使い方を探る」



体験実習

1. シップ菓を合成する (創薬科学系機能分子化学分野)
2. オワンクラゲの光を体験しよう!! (分析薬科学系薬品分析学分野)
3. 食品に含まれる着色料を調べよう (生命薬科学系衛生化学分野)
4. 今日の温度は快適?不快?測ってみよう、感覚温度!
(生命薬科学系公衆衛生学分野)
5. 身近な細菌に色を付けて観てみよう。 (生命薬科学系微生物・感染制御学分野)
6. 切っても切ってもプラナリア (生命薬科学系病態生理学分野)



施設見学

希望者がグループにわかれて、臨床薬学教育研究センターや研究室、講義室、実習室を見学しました。

相談会

教育職員、事務職員、在学生在が参加者の相談に応じました。

関係者の皆様には、ご多忙中、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2009年度 6月、8月のオープンキャンパス参加人数

6月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計
6月14日（日）	118名	72名	190名
昨年度	109名	63名	172名

8月のオープンキャンパス

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月1日（土）午前	210名	99名	309名	346名
午後	138名	51名	189名	174名
小計	348名	150名	498名	520名
8月2日（日）午前	244名	97名	341名	368名
午後	123名	48名	171名	209名
小計	367名	145名	512名	577名
合計	715名	295名	1,010名	1,097名
昨年度	795名	302名	1,097名	

2009年度 8月のオープンキャンパスアンケート集計結果（高校生・受験生）

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	本学のホームページ	236	49.9
2	高校の進路指導または資料	143	30.2
3	オープンキャンパスのチラシ	105	22.2
4	家族または親戚	60	12.7
5	先輩・友人・知人	59	12.5
6	予備校	11	2.3
7	受験雑誌など	6	1.3
8	新聞	3	0.6
9	その他	12	2.5
10	無回答	2	0.4

Q2 参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパスなど施設・設備の確認	362	76.5
2	入試情報の確認	227	48.0
3	実験・研究などの施設・設備の確認	216	45.7
4	周辺の街並みや環境の確認	155	32.8
5	授業内容の確認	127	26.8
6	研究内容の確認	116	24.5
7	薬剤師国家試験対策についての確認	99	20.9
8	就職状況や進路指導の確認	95	20.1
9	教育理念・方針、将来構想の確認	70	14.8
10	薬学6年制の確認	65	13.7
11	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	59	12.5
12	クラブ・サークル活動などの確認	58	12.3
13	病院・保険薬局実習の確認	39	8.2
14	在学生の確認やコミュニケーション	31	6.6
15	教育職員及び事務職員の確認や相談	14	3.0
16	学生相談・サポート体制の確認	13	2.7
17	その他	9	1.9
18	無回答	11	2.3

Q3 受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	195	41.2
2	推薦入試	182	38.5
3	検討中	164	34.7
4	A方式（センター前期）	128	27.1
5	C方式（センター後期）	33	7.0
6	無回答	3	0.6

Q4 オープンキャンパス全体の感想はいかがでしたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	とてもよかった	272	57.5
2	まあよかった	163	34.5
3	あまりよくなかった	1	0.2
4	まったくよくなかった	1	0.2
5	無回答	36	7.6
合計		473	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	187	39.5
2	少し受験意欲が高まった	204	43.1
3	変わらなかった	71	15.0
4	少し受験意欲が減退した	2	0.4
5	かなり受験意欲が減退した	1	0.2
6	無回答	8	1.8
合計		473	100.0

2010年度大学院博士後期課程（夏季募集）及び 2009年度大学院博士後期課程（秋季入学）入学選考結果

2010年度大学院博士後期課程（夏季募集）及び2009年度大学院博士後期課程（秋季入学）入学選考を8月25日（火）に実施し、8月31日（月）に合格発表を行いました。

2010年度博士後期課程（夏季募集）の志願者は4名、合格者は4名でした。2009年度博士後期課程（秋季入学）の志願者は3名で、合格者は3名でした。

○2010年度博士後期課程（夏季募集）の合格者数等
（単位：人）

志願者数	4
受験者数	4
合格者数	4

○2009年度博士後期課程（秋季入学）の合格者数等
（単位：人）

志願者数	3
受験者数	3
合格者数	3

「卒業生からのメッセージ」 命に関わる仕事



飯田 崇博

平成元年 製薬化学科
（現薬剤学分野）卒業
武田薬品工業株式会社
総務人事センター
採用グループ
グループマネジャー

皆さんは、大学を卒業したらどんな仕事に就きたいか夢を持っていますか？

こんな仕事をやってみたいと、明確に言える人は少ないのではないのでしょうか。

自分自身振り返っても、学生時代はクラブ（ヨット部）、勉強、実習と目の前にあることに夢中で、将来どうなりたいか考えたことなど殆ど無かったように思います。

幸い卒業時は景気が良かったこともあり、就職で苦労することなく今の会社でMRの仕事に就きました。

明確な夢を持ってMRの仕事に就いたわけではないのですが、仕事を始めて3年目に担当させていただいた先生の患者さんがお亡くなりになった時、「何とかして助けたかったが力が足りなかった・・・」と涙された姿を目の当たりにし、自分が“命に関わる仕事”に就いていることを自覚したと同時に、自分も非力ながら何か役に立ちたいと心から思いました。

その後、MRを教育研修する医薬研修室へ異動し新入社員教育などに携わり、現在は採用グループで採用を担当しています。

仕事の内容は大きく変わりましたが、今も自分の大きなモチベーションの一つとなっているのが入社3年目に出会った先生の顔です。

教育、採用は、先生に会って行う仕事ではありませんが、教育研修で関わったMRや採用した新入社員の活躍が、あの先生が診ている患者さんに繋がっていると、悔し涙を流した先生の顔が思い浮かび不思議と力が湧いてきます。

最近、多くの学生の方々と会う中で、「仕事のやりがいは何ですか？」と質問を受けることがあります。

卒業間もないころであれば答えに窮していたかもしれませんが、今は「自分の仕事が医療機関の先生方や患者さんの役に立っていると感じたとき」と自信をもって言えます。

私は働いてから“命に関わる”を実感しましたが、薬学部が6年制へ移行したことで、在学中に患者さんと接し、“命に関わる”を実感する機会が増えたのではないかと思います。

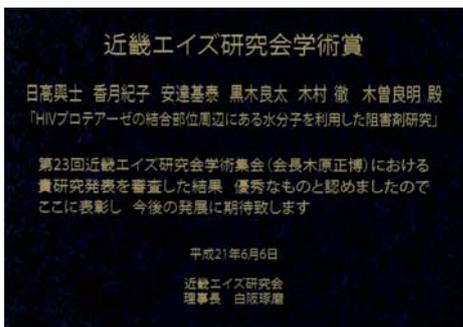
“命に関わる”は、働いて初めて体感することが多いのかもしれませんが、秋の星空を見上げながら、大学で学んだことが、将来患者さんに役立つことを思い描き、どんな仕事をしたいか考えてみてはいかがでしょうか。

普段あまり考えることが無いかもしれませんが、将来皆さんが就く仕事は“命に関わる”ものであり、多くの方々から期待されているのです。

受賞

近畿エイズ研究会学術賞

2009年6月6日、京都大学で開催された第23回近畿エイズ研究会学術集会において、薬品化学分野の日高興士助手が発表を行い、近畿エイズ研究会学術賞を受賞しました。演題「HIVプロテアーゼの結合部位周辺にある水分子を利用した阻害剤研究」



21st American Peptide Symposium Travel Award

2009年6月7日～12日、米国インディアナ州ブルーミントンで開催された21st American Peptide Symposiumにて、薬品化学分野のメンバー3名がTravel Awardを受賞しました。

受賞者：Diganta Sarma博士 (JSPS外国人特別研究員)、谷口敦彦博士 (JSPS特別研究員)、吉矢 拓院生 (JSPS特別研究員)



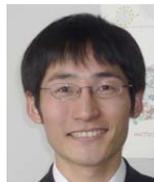
日本薬学会学術振興賞

薬品化学分野の林 良雄客員教授 (東京薬科大学教授) が、平成21年度日本薬学会学術振興賞を受賞しました。2009年3月25日、日本薬学会第129年会の前日に授与式が行われ、翌26日に薬品化学分野の木曾良明教授を座長として受賞講演が行われました。



American Chemical Society Fall 2009 National Meeting Travel Award

2009年8月16日～20日、米国ワシントンDCにて開催されたAmerican Chemical Society Fall 2009 National Meetingにおいて、薬品化学分野の谷口敦彦博士 (JSPS特別研究員) がOrganic Chemistry DivisionのTravel Awardを受賞しました。



「政府投資が生み出した成果の調査」報告で、薬品化学分野の研究が代表的事例に選ばれる

文部科学省科学技術政策研究所が2009年3月付で報告した「政府投資が生み出した成果の調査」プロジェクトの結果の中で、薬品化学分野のアルツハイマー病治療薬に関する研究が代表的成果事例のひとつに選ばれました。

科学技術政策研究所では、第3期科学技術基本計画のフォローアップの一環として、12のプロジェクトで構成される調査研究を内閣府総合科学技術会議の付託により実施しました。本調査プロジェクトはこのうち「政府投資が生み出した成果の調査」に該当するもので、「1. 大学・公的研究機関の多様な成果」と「2. インパクトの大きい成果事例とそれを後押しした政府支援」という二つの観点から最近の科学技術成果を調査しています。

上記1. では大学・公的研究機関にアンケート調査を行った結果、189機関より1,052件もの成果が寄せられ、その中で「重要性・今後のさらなる発展性などの観点」で、薬品化学分野の『アルツハイマー病治療薬としてのβセクレターゼ阻害剤の創製』が代表的成果39事例のひとつ(事例31)に選定されました。この39事例は、調査報告書の一部として『大学・公的研究機関の多様な成果事例集』にまとめられています。

本調査報告書は、2009年6月19日に報道発表され、科学技術政策研究所のHPから入手可能です。
<http://www.nistep.go.jp/index-j.html>



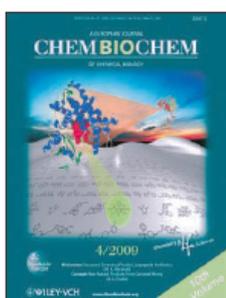
薬品化学分野の論文が *Angewandte Chemie*誌のスポットライト欄で採り上げられる

薬品化学分野の“クリックペプチド”に関する論文が *Angewandte Chemie International Edition* 誌 (2000, 48, 2444) のスポットライト欄で採り上げられました。

クリックペプチドとは、ペプチドの機能を解析する上で有用となる合成ペプチド前駆体です。例えば、アルツハイマー病因ペプチドとされるアミロイドβペプチド (Aβ) 1-42 は、水に溶けにくく、また制御不能な凝集を起こすことから取り扱いが難しく、その機能を解明する生物学的・物理化学的実験が困難です。それに対し、Aβ 1-42 のクリックペプ

チドは、水溶性また非凝集性で扱いやすく、かつ実験系内で刺激 (“クリック” : pH 変化、光照射等) に応じて Aβ 1-42 に変換されます。これによって Aβ 1-42 の実験が容易になり、アルツハイマー病の詳細な発病機構に迫ることができると期待されます。

Taniguchi et al., “Click Peptide”: pH-Triggered in Situ Production and Aggregation of Monomer Aβ 1-42, *ChemBioChem* 2009, 10, 710-715.

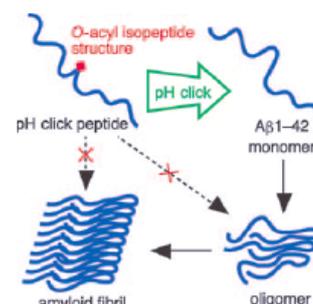


Protein Aggregation

A. Taniguchi, Y. Sohma, Y. Hirayama, H. Mukai, T. Kimura, Y. Hayashi, K. Matsuzaki, Y. Kiso*

“Click Peptide”: pH-Triggered in Situ Production and Aggregation of Monomer Aβ1-42

Into neutral: We demonstrate the unique features of a pH click peptide based on an O-acyl isopeptide method. Under acidic conditions, the click peptide remains in a monomeric form. Upon increase of the pH to 7.4, the click peptide is quickly able to convert into Aβ1-42 through an O-to-N intramolecular acyl migration. Further study using this pH click peptide would elucidate the pathological role of Aβ1-42 in Alzheimer's disease.



ChemBioChem
DOI: 10.1002/cbic.200800765

薬品化学分野の研究が *Organic & Biomolecular Chemistry*誌の表紙を飾る

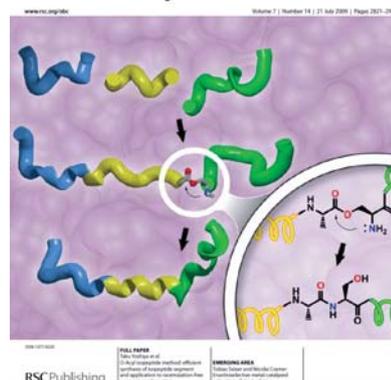
薬品化学分野の木曾教授らが発表した研究論文が、*Organic & Biomolecular Chemistry* 誌 (英国王室化学会) の内表紙のイラストとして採用されました。

本研究は、薬品化学分野が開発した *o*-アシルイソペプチド法を、長鎖ペプチド合成法として応用する研究です。従来のセグメント縮合法においては、長鎖ペプチドの収斂的な化学合成を達成する一方で、ラセミ化 (エピメリ化) という問題をはらんでいました。

今回、新たに報告された手法においては、*o*-アシルイソペプチド法を応用する事により、問題となるラセミ化を起こす事なく、長鎖ペプチドの化学合成が可能である事が確認されています。今後、様々な生理活性ペプチドやタンパクの合成に、本手法が応用されるものと期待されます。

Yoshiya, T. et al. *o*-Acyl isopeptide method: efficient synthesis of isopeptide segment and application to racemization-free segment condensation. *Org. Biomol. Chem.* 2009, 7, 2894-2904.

Organic & Biomolecular Chemistry



HIVプロテアーゼと阻害剤KNI-272との複合体の中性子構造解析に、世界に先駆けて成功

2009年3月5日、文部科学省12階記者会見室にて、薬品化学分野の木曾良明教授らのエイズ治療薬研究の成果について記者会見が行われました。木曾教授グループと、日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門黒木良太博士のグループ、そして大阪大学および株式会社創晶が共同して、中性子結晶回折によりHIVプロテアーゼ活性中心と阻害剤KNI-272が相互作用する水素原子の決定に、世界に先駆けて成功しました。創薬の標的タンパク質を中性子結晶構造解析できたのも、この成果が世界発となります。

会見には本学から木曾教授、原子力研究開発機構からは黒木博士、安達基泰博士が臨み、文部科学記者会、科学記者会、経済産業記者会など、多くの記者からの質問を受けました。本成果は、アメリカ東部時間3月9日に米国科学アカデミー紀要のWeb版で公開され、追って日本国内の全国紙をはじめ、専門紙、Webニュースなどでも多く採り上げられました。

M. Adachi, et al. Structure of HIV-1 protease in complex with potent inhibitor KNI-272 determined by high-resolution X-ray and neutron crystallography. Proc. Natl. Acad. Scie. USA 2009, 106, 4641-4646.



文部科学省記者会見室での黒木博士（左）と木曾教授

HIV増殖の必須たんぱく質

全原子構造を解明

カド子など
原子機構

エイズウイルス(HIV)の増殖に必須なたんぱく質「HIVプロテアーゼ」のすべての原子と結合する重要な水素原子の位置まで詳しく構造を、日本原子力研

究開発機構などの研究グループが解明した。エイズ治療薬がこのたんぱく質と結合する重要な水素原子の位置まで詳しく構造を、日本原子力研

日本経済新聞
2009年3月10日号(夕刊)

HIVプロテアーゼと、その働きを抑える阻害剤の一種を結合させた結晶を作製。原子力機構が開発した中性子構造解析装置を使い、たんぱく質と阻害剤との結合に関与する水素原子まで含めた原子構造を把握できた。

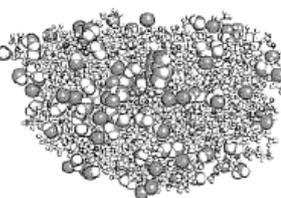
HIV増殖させるたんぱく質

原子力機構や京都薬科大

中性子線で構造解明

エイズウイルス(HIV)の増殖にかかわるたんぱく質の立体構造を、日本原子力研究開発機構や京都薬科大などが原子レベルで解明した。X線を従来使っていたと見えにくい水素原子の位置を、中性子線を使うことで特定した。より効果の高いエイズ治療薬の開発につながるという。

原子力機構の空室薬理研究室(たひばく西構造)では、HIVの増殖に不可欠な「HIVプロテアーゼ」と、この働きを妨げ増殖を抑える「KNI-272」が合体し



た状態の結晶を作った。同機の中性子線を用いた中性子構造解析の研究用原子炉(茨城県東海村)で中性子線を照射し、原子の位置を特定した。この解析は、原子力機構が開発した中性子線を用いた中性子構造解析装置を使い、たんぱく質と阻害剤との結合に関与する水素原子まで含めた原子構造を把握できた。

毎日新聞 2009年5月12日号

HIV酵素全構造解明 治療薬開発に期待

京都薬科大など
エイズウイルス(HIV)の増殖に欠かせない酵素「プロテアーゼ」の全構造を、原子レベルで明らかにすることができた。これにより、より効果の高い治療薬を開発できるという。

エイズウイルス(HIV)の増殖に欠かせない酵素「プロテアーゼ」の全構造を、原子レベルで明らかにすることができた。これにより、より効果の高い治療薬を開発できるという。

京都新聞 2009年3月10日号(夕刊)

The 4th Collaboration Meeting on GI Pharmacology,

Phytochemicals and Phytonutrients Co-sponsored

by Kyoto pharmaceutical University and Yonsei Universityに参加して

薬物治療学分野 山口 彩(M2)、湖城 梓(M1)

去る2009年6月29日、韓国の延世大学と本学とで年1回開催されている合同シンポジウムがソウル市の延世大学にて行われました。本シンポジウムは韓国(延世大学)と日本(京都薬科大学)で交互に開催場所を変えて行われています。今回のシンポジウムには本学、および延世大学の他に、ソウル大学を加えた3大学合同での開催となりました。

私たちは、6月28日夕刻に韓国に到着し、30日までの3日間韓国に滞在しました。韓国に到着後、延世大学の大学院生の方たちの案内のもと、大学構内の見学や研究室の紹介をしていただきました。延世大学は丘の上に立地し、自動車や自転車などを使用して移動しないと大変なほど構内がとても広いうえ、緑も多く、開放感にあふれていました。また、本学や多くの日本の大学と異なり、様々な人種や年齢の方がおられたのが印象的でした。その日は延世大学の大学院生とともに、大学周辺の学生街である新村へと本場韓国の焼き肉、プルコギを食べにいった後、夜の新村の街を散策しました。その途中でお互いの研究内容や文化の違いについて語り合いました。

翌日の29日、延世大学内のAllen Hallにてシンポジウムが開催されました。午前8時半から6題の特別講演が行われ、延世大学のKim教授をはじめ、ソウル大学のSurh教授、本学の竹内教授、佐藤客員教授、天ヶ瀬助教らによる講演が行われました。講演内容は、炎症が関与する発がんの化学的予防や、胃潰瘍や胃がんの原因のひとつであると言われているヘリコバクター・ピロリ菌に関する研究、栄養素であるカロテノイドと消化管傷害との関連に関する研究など、同じ消化器領域でも、私たちの研究室で取り上げているテーマとは異なる角度からのものであり、興味深く聴くことができました。

午後からは各大学の大学院生による英語での口頭発表が行われました。演題は全部で14題あり、同じ消化管をターゲットとした研究でも各大学によって様々な視点から研究を進めているため、今後の参考になることが多かったと思います。今回参加した私たち大学院生4名(M2が3名、M1が1名)は英語での研究発表は初めてであり、単語の発音や文章の抑揚のつけ方について練習を重ねて本番に臨みました。終始和やかな雰囲気の中行われたこともあり、落ち着いて発表することができました。最初はとても不安だったのですが、皆さんに理解していただけるような発表ができたのではないかと思います。また今回、韓国の学生にも英語での口頭発表が初めてだと

いう方が多かったのですが、堂々と発表されており、とても良い刺激を受けました。もし、今後英語で発表する機会に恵まれたら、今回よりもさらに良い発表ができるように、これからも英語の勉強に励んでいこうと思います。

慣れない英語でのシンポジウムでしたが、夕方5時までしっかり勉強をしました。シンポジウム終了後、夕食までの2時間の間に、延世大学のKim教授と、延世大学の大学院生がソウル市内を案内して下さいました。

訪れた景福宮は1395年、李成桂により建造された朝鮮王朝時代の故宮であり、1592年の豊臣秀吉による朝鮮出兵時に焼失したものを再建したという歴史をもつ王宮でした。周辺には日本大使館もあるソウル市内の中心部において広大な面積を占めており、多くの樹木が植えられていました。廷内の池に植えられた蓮が水面を覆っており、昔の情景がそのまま残されているようでした。建物の周辺には四神が模された石像が配置され、建物の柱や梁、天井は赤、青、黄、緑を主体とした鮮やかなストライプで彩られているという、日本ではあまり見かけない印象的な構造をしていました。その次にソウル市内で最も高い建造物であるソウルタワーに訪れ、360°にわたる景観を楽しみました。ソウルタワーの展望台にはソウルから世界の主要都市までの距離がその方角に向って示されており、日本の方角に向かってそろって記念写真も撮影しました。また、ガラス張りの展望台の壁面にある小さな穴をのぞくと、穴の隣に示されたものがちょうど見える、という趣向が凝らされていました。

翌30日は、帰国便まで時間があつたため、途中、韓国国立中央博物館を訪れました。非常に大きな博物館であり、吹き抜けには、過去に日本人が勝手に韓国から日本に持ち出した歴史がある「敬天寺十層石塔」という、細かい彫刻の施された高さ13.5mもある石塔がそびえていました。韓国の国宝や、朝鮮時代の歴史ある展示物、さらに仏像などの日本人にとっても親しみやすい展示物もあり、興味深く鑑賞することができました。しかし、非常に大きな博物館だったため、館内の全てを鑑賞することができなかったことが心残りとなっています。もう一度訪れる機会があれば、もっと時間をかけて館内を回ってみたいと思います。

今回、このように海外で開催されるシンポジウムに参加することによって、個人で観光として訪れる

のとは違った有意義な時間を過ごすことができました。同じ年齢、同じ立場の他国の学生と時間を共有することにより、研究に対する意識をより高めることができただけでなく、韓国と日本の文化の違いや歴史について少しですが学ぶことができ、韓国のことをもっと知ってみたいと思うようになりました。

次回、このシンポジウムは延世大学の方を京都に招いて開催の予定だそうです。その時にはぜひ、私たちが延世大学の大学院生の刺激になるような研究発表をできるよう、日々努力していこうと思います。また、延世大学の方の案内によって韓国のいいところを知ることができたように、逆に日本のいいところを紹介していきたいと思います。今回、このように貴重な経験を得る機会を与えて頂いたことに感謝します。



参加者とともに（前列左端から佐藤客員教授、Surh教授、Kim教授、右端は竹内教授）

Library News

図書館

図書館開館日程

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

赤字が休館日。開館時間：平日9：00～20：00、土曜日10：00～17：00
臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

図書館資料のテーマ展示を始めました

図書館でたとえば「環境」に関する図書を利用しようとするとき、まず閲覧室の書架に並んでいる図書を探して手に取る方が多いことと思います。ところがご存じのように、「環境」という言葉をキーワードとする図書が書架の一角所に集まって並んでいるわけではありません。一冊の本は様々な主題を扱っていることがありますから、図書館ではその本の中心をなす主題のところに分類されて配架されます。さらに、文庫本や新書本などは別のコーナーに置かれますし、閲覧室の書架が一杯になりますと一部の図書は書庫へ配列されます。

このように図書館の中では「環境」に関連する図書があちこちに分散配置されています。また、本の背に書かれた書名から直ちに「環境」を連想し難い図書もあります。ある主題に関するこのような図書を一つに集めて見ていただくことを企画し、たいへん小規模ですが図書展示を催すことにしました。初回は私たちにとって大変身近な問題であり、かつ世界規模の課題にもなっている「環境」をテーマに選

「第1回 環境」



びました。展示期間は2～3ヶ月とし、これからも効果的なディスプレイの方法や技術を学びながら、順次他のテーマで実施する予定です。展示中の資料を借り出すことができます。また関連図書の購入リクエストもお受けいたします。ぜひ一度ご覧ください。

お 知 ら せ

第3回自治会主催の七夕企画について
学生自治会広報代表 木村 早希

6月末から7月初旬。昨年に引き続き、今年も愛学館1階において第3回七夕企画を開催いたしました。

この企画は、私たちが用意しておいた短冊に願い事を書いてもらい、笹に飾ってもらうというシンプルな参加型の企画です。毎日同じような繰り返しの日々に少しでも季節を感じてもらいたく、また学部生はちょうど前期試験開始の1ヶ月前にあたるため、試験勉強の息抜きになればと思い、例年通り行いました。

今回は私が代表になって初めての企画ということもあり、不安な時もありましたが、学生課の方の手も借りて、こうして無事に終わることができました。開催中、友人やクラスメイトに「願い事書いたよ!」「きれいやね」などと笑顔で言ってもらえることが多々あり、心から嬉しかったです。

今年は、結果992枚の短冊が笹に飾られることとなりました。年々増えていて、企画する側としてもやりがいを感じる事ができ、本当にありがたく思います。



教育後援会からのお知らせ

教育後援会より、「学生用掲示板」を愛学館食堂出入口前、喫茶横、西出入口の3箇所に寄贈いたしました。

早速、11月に開催される京薬祭に関してのお知らせ、教育後援会から寄贈する一般図書のアンケートについてのお知らせなど積極的に利用されています。

学生の情報発信に大いに活用していただきたいと思います。

2009年度卒業式・学位記授与式(前期)及び
2009年度大学院博士後期課程秋季入学式

9月30日(水)午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2009年度卒業式・学位記授与式(前期)を執り行いました。

課程博士2名、論文博士3名に学位記(博士)、学部薬学科1名、同製薬化学科13名、同生物薬学科16名に卒業証書・学位記(学士)が西野学長から授与されました。

式終了後、午後4時30分から、愛学館1階の学生食堂で「卒業記念祝賀会」が行われ、卒業生は職員、ご父母の皆様と共に、終始なごやかで楽しいひと時を過ごしました。

また、卒業式に先立ち、本年度後期より博士後期課程の学生3名を迎えることとなり、同日3時より秋季入学式を執り行いました。

人 事

昇任

2009. 10. 1付

創薬科学系薬品化学分野 助 教 日高 興士

採用

2009. 10. 1付

創薬科学系薬品化学分野 助 教 相馬 洋平

事務局企画・広報課 事務員 木村 慶子

配置換

2009. 10. 1付

薬学教育系教育研究総合センター学生実習支援センター
(創薬科学系薬品化学分野兼務2010年3月31日まで)
准教授 木村 徹
(創薬科学系薬品化学分野)事務局庶務課 主 事 五十嵐洋子
(事務局教務課)事務局企画・広報課 主 事 山口 貴
(事務局入試課)事務局入試課 事務員 奥村 亮
(事務局庶務課)

退職

2009. 9. 30付

創薬科学系薬品化学分野 准教授 齋藤 一樹
(契約教員)

京薬会だより

<卒業教育講座>

※卒業教育A

今年度も定員500名に対して本学卒業生を中心とする受講生489名を得て、A31講義室（愛学ホール）とA21講義室を連携した4日間12コマのマルチメディア講義を行いました。開講34年目の今年度は、薬剤師の役割に加えて、統合医療や小児薬物療法等受講者の希望の多いテーマについて専門の分野の先生方をお願いし、9月6日無事終了しました。

※卒業教育B

愛学館で実施する卒業教育Aは主として近畿在住の薬剤師を対象にしていたが、今年度は新たに生涯教育を全国の京薬会会員や薬剤師に対して拡大すべく卒業教育A講演ビデオを配信する卒業教育プログラムを企画、10月～12月に開講します。詳しくは、京薬会ホームページをご覧ください。なお、WEB配信による著作権侵害の危険性に対する措置もとっています。

<公開講座>

今年度は11月7日（土）に大学との共催で西野学長のご講演「新型インフルエンザとどう向き合うのか」や例年通り体力診断コーナーなどが行われます。

<京薬会代議員総会、各支部総会>

新型インフルエンザで延期されていた代議員総会が7月25日（土）開催されました。詳しくは、京薬会

誌130号（9月発行）をご覧ください。また、7月から2月まで全国10支部で開催されます。7月の北海道を皮切りに高知で開催され、10月以降は、三重、大阪、京都、宮崎、岡山、東京、愛知、愛媛で順次開催されます。詳細については京薬会ホームページの「支部会のページ」をご覧ください。

<大学・学生支援>

京薬会では、現役の学生への支援として、分子モデルの贈呈、京薬祭や駅伝大会への定番助成のほか、今年度は、学生の修学支援に寄与するため、大学が卒業生などに呼びかけた京都薬科大学奨学金（給費奨学金）に対し100万円を寄付します。また、インカレ、国体出場など優秀な選手を有するクラブに対しても支援を行います。

<京薬会ホームページ内<

研究室、クラブ・同好会のページを設置>

京薬会ホームページ内に本学の研究室、クラブのページを新設しました。卒業生などを対象とした種々のお知らせ等にご活用下さい。

<風水害・地震被害の調査>

京薬会では天災被害者への支援を行っています。6月の集中豪雨、静岡県での地震などで実家が被害に遭われた学生さんがおられましたら京薬会事務室までお知らせ下さい。

<京薬会ホームページ> <http://www.kpu-aa.com/>

京都薬科大学奨学金制度充実のための寄附のお願い

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学は、2006年度から薬学部入学者は6年制になり、これに関連して2007年度には、長期の病院・薬局実習に対応するための事前実習施設として、臨床薬学教育研究センターを建設、さらに2008年11月から躬行館の建設に着工し、施設整備のための多額の設備投資を続けております。また、2010年度からは、長期に亘る病院・薬局実習のための多額の実習費支出を余儀なくされます。

このような厳しい経営環境の中にありましても、6年制移行により学費負担の増大する学生の修学を支援するため、本学奨学金制度の充実が急務であると考えております。

つきましては、学生に対する修学支援としての制度充実のため、ご寄附による資金的なご支援をお願いするものでございます。

ご寄附いただきました資金は、奨学寄附金として受け入れ、奨学基金に積み立てさせていただきます。なお、ご寄附をいただきました方々は、年度ごとの寄附者名簿を作成し永久保存として保管してまいります。また、寄附者名をKPU_{NEWS}にも掲載させていただきます。

何卒、学生たちの修学支援のために、奨学寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、卒業生の京薬会会員の皆様には、京薬会誌に寄附募集を掲載してお願いしております。

2008年12月

学校法人 京都薬科大学
理事長 田村 正昭

京都薬科大学
学長 西野 武志

【京都薬科大学寄附金募集要項】

1 目的

奨学金制度の充実

2 金額

一口 1万円（一口以上でお願いいたします。）

3 寄附金の使途

給費奨学金

4 担当・お問い合わせ場所

京都薬科大学 庶務課

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5

TEL：(075) 595-4600（代表）、(075) 595-4608（庶務課直通）

※上記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、ご芳名のみ五十音順に掲載しております。

2008年12月に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

五・五会（昭32卒）

洛楽会（昭29卒）

〈教育後援会会員〉

〈企業・団体〉

〈法人役員・評議員・職員〉

石黒 博直(評議員) 西野 武志(学 長)

武田 禮二(理 事) 村澤 悟(局 長)

田村 正昭(理事長)

2009年1月～3月10日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

荒石 悦子(昭47卒)

井岡 万純(昭49卒)

石黒 道彦(昭19卒)

今村 浩(昭38卒)

今村 薫子(昭38卒)

上田 啓三(昭32卒)

扇谷 年昭(昭50卒)

大杉 三郎(昭16卒)

川崎 昌義(昭42卒)

久保 巖(昭14卒)

久保田光二(昭23卒)

栗尾和佐子(昭58卒)

厚東 正子(昭41卒)

小財 勲(昭24卒)

柴田 公見(昭62卒)

末永 克己(昭19卒)

高越 清昭(昭44卒)

竹田奈保美(昭56卒)

谷口 睦子(昭42卒)

丹所 稔(昭51卒)

突合 皐月(昭41卒)

辻 勝蔵(昭34卒)

戸井 豊子(昭47卒)

富永 勲秀(昭43卒)

中川 知秀(昭31卒)

中嶋 澄江(昭50卒)

長屋ちとせ(昭56卒)

西野 哲夫(昭23卒)

野原 基司(昭53卒)

福井美代子(昭31卒)

藤本 國勝(昭39卒)

藤本 恒子(昭41卒)

牧 敬文(昭28卒)

松村 郁治(昭36卒)

松本 直之(平20卒)

松本 望(平10卒)

向林素鶴子(昭40卒)

本岡美智子(昭37卒)

京都薬専・薬大

植研0B・0G会

昭和54年卒業生

有志一同

武田薬品研究所

有志一同

薬品製造学分野

〈法人役員・評議員・職員〉

蘆田 康子(理 事) 田村 正昭(理事長)

上西 潤一(教 授) 野出 學(副学長)

北出 達也(教 授) 浜崎 博(教 授)

桑形 広司(准教授) 村澤 悟(局 長)

河野 茂勝(教 授) 森田 和子(評議員)

後藤 直正(教 授) 渡辺 徹志(准教授)

〈元教授〉

太田 俊作

〈教育後援会会員〉

岡田 代吉

屋木 利之

〈企業・団体〉

匿名希望 2社

2009年3月11日～6月10日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

赤川 征一(平01卒) 小西 久子(昭32卒) 藤岡 三夫(昭30卒)
 浅野紗智子(昭41卒) 小林 正明(昭35卒) 藤沢平八郎(昭30卒)
 安宅 弘充(平13卒) 小林 元樹(昭47卒) 藤本 悦子(昭59卒)
 有田 昌純(昭58卒) 佐久間賢治(平09卒) 布施知加子(昭36卒)
 石岡 浩子(昭59卒) 佐々木 務(昭63卒) 堀内 厚生(昭28卒)
 石垣 永吉(昭20卒) 佐野 敬子(昭57卒) 前田 由美(昭43卒)
 石田 善浩(平18卒) 澤口 元(昭28卒) 増田 本彦(昭28卒)
 市川 和子(昭36卒) 澤口 萌子(昭28卒) 増田みち子(昭31卒)
 市川 克己(昭59卒) 嶋田 義彦(昭37卒) 松野 愛子(昭36卒)
 稲垣 美幸(昭45卒) 杉山 隆二(昭23卒) 松本 蒼平(昭22卒)
 井上 佳昭(昭49卒) 平 雅文(昭59卒) 松本 勉(昭46卒)
 猪熊眞由実(昭63卒) 高井 麻里(平18卒) 松本 恒行(昭24卒)
 岩井 隆也(平01卒) 高橋 健人(平20卒) 三森 寿一(昭35卒)
 大賀 弘一(昭37卒) 高宮 靖(昭20卒) 六車 昭美(昭39卒)
 大滝 勝憲(昭56卒) 高柳 佳澄(昭59卒) 村井 一枝(昭32卒)
 大前 壽子(昭54卒) 瀧 美知代(昭62卒) 村尾 重之(昭24卒)
 大脇 弘之(昭53卒) 竹内 宏一(昭40卒) 村山 雅子(昭46卒)
 岡 恒(昭28卒) 辻本千代美(昭63卒) 森 一二美(昭52卒)
 岡田みどり(昭49卒) 寺坂哲太郎(昭41卒) 安田 和夫(昭32卒)
 奥林 活人(平14卒) 戸井 一郎(昭46卒) 安松 幹夫(昭33卒)
 香川 春樹(昭57卒) 富山 剛(平14卒) 矢野 好隆(昭39卒)
 笠島 俊男(昭28卒) 中川 幸雄(昭33卒) 山口 博行(昭42卒)
 鎌倉 嘉男(昭36卒) 永友 敏郎(昭27卒) 山下 繁克(昭41卒)
 川島 弓枝(昭62卒) 永浜 淳子(昭31卒) 山下三千子(昭41卒)
 河原 曜子(昭52卒) 中村 悦子(昭37卒) 山本加寿子(昭46卒)
 岸田 幸子(平08卒) 中村 泰三(昭41卒) 湯浅 総司(昭32卒)
 北 泰行(昭42卒) 七海 朗(昭41卒) 横田 好子(昭39卒)
 北山 進三(昭48卒) 七海 禮子(昭41卒) 吉澤 房子(昭49卒)
 木村 恵一(昭34卒) 沼波 康恵(平16卒) 吉田 和子(昭44卒)
 金生 貞治(昭29卒) 能口 敬子(昭50卒) 吉村 聡子(昭56卒)
 國貞 真司(昭41卒) 林 卓志(平20卒) 渡邊 萬里(昭48卒)
 倉本 昌明(昭28卒) 平野 隆(昭55卒) 匿名希望 1名
 小泉 健(昭36卒) 広瀬 泰久(昭20卒)

〈法人役員・評議員・職員〉

秋葉 聡(教授) 土屋 勝(理事)
 石川 誠司(助教) 土岐 隆信(評議員)
 伊槻 雅子(評議員) 長澤 一樹(准教授)
 乾 賢一(理事) 中田 徹男(教授)
 入江 一充(監事) 西口 工司(教授)
 大槻 雅子(准教授) 能勢 俊彦(課長)
 抱 喜久雄(准教授) 野出 學(副学長)
 北村 佳久(准教授) 藤原 洋一(講師)
 桑原 敏則(課長) 星野 展宏(主査)
 小里 芳顕(課長) 増田 重治(課長)
 児玉 孝(評議員) 皆川 周(助教)
 後藤 勝実(講師) 宮秋 昭(理事)
 佐原 和美(主査) 宮本 茂敏(理事)
 高野 江里(課長) 宮本 孝(課長)
 高山 明(教授) 村山猪一郎(監事)
 竹内 孝治(教授) 安井 裕之(教授)
 武上 茂彦(講師) 山下 豊彦(課長)
 武田 禮二(理事) 吉村 律子(主事)
 田村 正昭(理事長) 京都薬科大学
 月岡 淳子(助教) 教授親睦会

〈元教授〉

井上 武久 藤本 貞毅
 金澤 治男 村西 昌三
 福井 昭三

〈企業・団体〉

株式会社 茨木春草園
 キノンビクス株式会社
 株式会社 京都ラボ
 匿名希望 2社

2009年6月11日～9月30日に寄附をお寄せいただいた方々

〈卒業生・同期会等〉

赤坂由利子(昭42卒) 田中 弘人(昭54卒)
 安達 茂子(昭32卒) 富永 享子(昭43卒)
 井上 隆夫(昭22卒) 堀内 順平(昭57卒)
 大槻 房三(昭24卒) 三河絵梨子(昭60卒)
 木村 寛之(平13卒) 宮川 喬行(昭39卒)
 久米 和子(昭43卒) 山下 政彦(昭42卒)
 佐々木康夫(昭50卒) 渡辺 温(昭43卒)
 佐藤千鶴子(昭32卒) 京都薬科大学京薬会
 杉本磨理子(昭46卒)

〈企業・団体〉

京都電子計算株式会社
 株式会社京都廣川書店
 大和電設工業株式会社
 株式会社長角堂
 株式会社不二家商事

〈教育後援会会員〉

松岡 輝秋

〈法人役員・評議員・職員〉

有本 收(教授) 橋詰 勉(教授)
 久米 光(評議員) 畑山 巧(教授)
 隅田 芳男(講師) 阪 幸子(主査)
 谷口 隆之(教授) 樋口 文子(係長)
 田村 正昭(理事長) 宮川 克之(評議員)
 長澤 吉則(准教授) 京都薬科大学学生課
 奈邊 健(准教授)

〈元教授〉

北村 桂介 穂積啓一郎

(2009年9月30日現在)